

准教授

杉谷 修一

■ 学歴

1. 1993年九州大学大学院教育学研究科地域教育社会学専攻（博士課程）単位取得満期退学

■ 学位

1. 1990年 修士（教育学）

■ 研究分野

1. 教育社会学
- 2.
- 3.

■ 研究キーワード

1. ゲーミフィケーション
2. 子ども文化
3. 遊び

■ 研究課題

1. 教育分野におけるゲーミフィケーションについて、参加者の主体的関与とナラティブの関連を中心に検討する。
- 2.

■ 担当授業科目

1. 道德教育の理論と実践（前期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
2. 教育社会学（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
3. 教育原理（後期）（福祉学科）選択
4. 教育原理（後期）（福祉学科）選択
5. 社会学と社会システム（後期）（福祉学科）選択
6. 社会調査の基礎（前期）（福祉学科）選択
7. 初年次セミナーⅠ（前期）（福祉・栄養学科）必修
8. 初年次セミナーⅡ（後期）（福祉学科）必修
9. 教職実践演習（後期）（看護・福祉・栄養・英語学科）選択
10. 養護実習（前期）（福祉学科）選択
11. 養護実習事前事後指導（三期にわたる）（福祉学科）選択

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【道徳教育の理論と実践】</p> <p>道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。「考え、議論する」道徳教育という学習指導要領の方向性を踏まえ、道徳科のテーマに学生自身が深くコミットできるよう心掛けた。学習指導案の構造と基本的な書き方を身に付け、教材研究、発問の工夫、評価の観点と実際など、実践的力量形成を重視した。また「道徳教育データベース」やその他の実践記録を視聴・分析するなど、具体的な授業イメージの形成を促した。</p>
2.	<p>授業科目名【教育社会学】</p> <p>「社会化」をキーワードに、理論的枠組みとそれが把握しようとする教育現象について、できるだけ具体的な場面や事例を取り上げて解説した。また、学校、地域、家族が時代の変遷とともにどのように移り変わったのか。現代的な教育課題にどのようにつながるのかを通時的に取り上げた。学力、貧困などのテーマについては、調査データを丁寧に読みながら、教育問題への理解力の向上を目指した。スライド資料や動画資料などできるだけ興味を持てるよう工夫した。</p>
3.	<p>授業科目名【社会調査の基礎】</p> <p>統計学の手法と関わりが大きい科目であり、学生の苦手意識が強い科目である。この概念はなぜ必要なのか、使い方やその意味を身近な例を使って理解できるよう心掛けた。テキストを補足するスライド資料を充実させ、授業中に理解したスライドの内容を自宅でテキストを参照しながら復習できるようにした。</p>
4.	<p>授業科目名【教育原理】</p> <p>保育士を目指す学生の科目であるが、なじみの薄い教育の本質論、目的や方法についての歴史や哲学などに触れるため、テキストを補足するスライド資料を工夫した。教育の歴史については、社会の在り方と教育がどのように関連するのかを具体例を挙げて解説した。また、現代的な教育課題については、いじめ・不登校・暴力行為等、子どもと貧困の現状と社会の取り組みについて、教育現場だけでなく広い視野で理解できるよう資料を工夫した。</p>
5.	<p>授業科目名【社会学と社会システム】</p> <p>国家試験の科目であるため、内容が総花的になりやすい科目である。社会システム論を基盤としながら、社会を説明・理解するツールとしての理論について、できるだけ実例を挙げながら解説した。特に現代社会の課題に関する部分は変化が早く、テキストがフォローできない部分や学生がニュースで触れている日常のできごとをなるべく多く取り上げ、自分事として社会学を意識できるよう工夫した。スライド資料、動画視聴など興味を引く教材作成にも取り組んだ。また、履修後に活用できる音声ファイルで学べるスライド教材を作成した。</p>
6.	<p>授業科目名【初年次セミナーⅠ・Ⅱ】</p> <p>大学初年次を対象とする、基礎的なスキル向上を目指す科目だが、アカデミックスキルだけでなく、時間管理や課題への取り組み方など日常生活に関連する TIPS も取り上げた。この授業ではアカデミックなものに限らない広がりテラシーの基礎を作るという意味で、情報リテラシー、読む楽しさをどう見つけ、広げるかなど「本を好きになる」きっかけづくりを心がけた。読み取りに課題のある学生は、実際に問題を解き、解説し、グループワークで解決策を共有・発表するなどの方法で体験してもらった。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1985年6月～現在に至る	日本教育社会学会	
2.	1990年11月～現在に至る	日本社会学会	
3.	1990年5月～現在に至る	日本教育学会	
4.	1997年5月～現在に至る	日本教育方法学会	
5.	1990年5月～現在に至る	九州教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2024年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.					
2.					
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外 者	交付決定額 （単位：円）
1.				
2.				
3.				

（2）個人研究

	研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2007年9月～現在に至る	特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	講師
2.			
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2014年4月～現在に至る	教職課程委員会	
2.	2021年4月～現在に至る	大学点検評価改善会議 FD 部門 会議	
3.	2022年4月～現在に至る	福祉学科インスタグラム検討会	
4.	2024年4月～現在に至る	図書委員会	